

吹奏楽

中橋愛生

■国内団体の動き

各団体が特色ある活動を行ったが、目立ったのはシエナwoの活動。1月17日に東京佼成woと定期演奏会を同日開催としてプログラム冊子の共有、リレー・チケットを発売。3月21日に尚美wo（専門学校のバンド）とのコラボレーションで作曲家フィリップ・スパークを招いたコンサート。3月から6月頭の丸三ヶ月かけてゲーム「ファイナル・ファンタジー」の音楽でツアーを行ったのも斬新。7月に作曲家ジェームズ・バーンズを招いて自作自演のプログラムで定期演奏会。

大阪市音楽団は2月4日に秋山和慶の指揮で第110回定期演奏会。これがこの名称では最後の定期となった。3月16日に新名称「オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ」を発表、6月2日にこの名での初の定期演奏会をフィリップ・スパークの自作自演で行う。

海外の人気作曲家を招くのが近年目立ち、5月10日に九州管楽合奏団が作曲家ヨハン・デメイの自作自演で定期公演。他、6月下旬の尚美woの北海道公演もジェームズ・バーンズを迎え、音大バンドやアマチュア・バンドも含めると数多い。3月17日のトレイル・ブレイザーズ・テンピースプラス第10回記念公演にフィリップ・スパークが、9月12日の海上自衛隊東京音楽隊の定期演奏会に作曲家ヤン・ヴァンデルローストが招かれた。そんな中で確固たる信念による公演を続ける東京佼成woの活動も評価したい。また、革新的な企画で注目の広島woは3月16日に広島市民賞を受賞。12月12日の定期演奏会ではアンドレ・プレヴィンへの委嘱作を下野竜也の指揮で初演。

金管バンドVIVID BRASS TOKYOの首席指揮者に松元宏康が就任し10月29日の創立20周年公演に初披露。金管バンドでは5月6日に東京でプラスバンド・ゼファーがデビュー公演。昨年も新しいバンドが多数誕生していたが、今年も8月30日に室内吹奏楽を主軸にしたプロ団体ウインド・アンサンブル・グラウベンがさいたま市文化センターにて第1回定期演奏会を開催（設立自体は2004年）、小編成を謳った小江戸ウインドアンサンブルが9月14日に旗揚げ公演を行っている。7月25日にはズーラシアンプラスが結成15周年を記念し吹奏楽団「ズーラシアンウインドオーケストラ」を組織しデビュー公演を行った。5月1日にはメンバーの急逝で休止していたポップス専門のプロバンドThe Wind Waveが活動を再開。

自衛隊のバンドでは、1月25日の陸上自衛隊中央音楽隊第114回定期演奏会で陸上自衛隊初となる専属ソプラノ（松永美智子）が委嘱作品でデビュー。2月27日に優れた軍楽隊を称えるスーザ財団のジョージ・ハワード大佐表彰が海上自衛隊横須賀音楽隊に贈られ、3月6日に陸上自衛隊中央音楽隊隊長の武田晃が日本人としては3人目となる全米吹奏楽指導者協会の名誉会員になるなど、自衛隊音楽隊の活動にはアメリカからの高い評価が目立つ。

各音楽大学の吹奏楽団もそれぞれ個性的な活動で、5月にCDを発売し同22日にオラフ・オット（Tb）と共演も果たした東京藝大woの活動が目を引く。

■イベント

作曲家アルフレッド・リード没後10年であったことから関連した演目が目立った。5月5日に東京芸術劇場で汐澤安彦・小林恵子・伊藤透の指揮により行われた第20回音の輪コンサートは最たるもの。

新しい全国規模の吹奏楽の大会が2つ始動。BSジャパンの主催による全日本プラスシンフォニーコンクールは全国大会が

9月22日にすみだトリフォニーホールで行われ益城町立益城中と修徳高が優勝。一次審査はDVD、8月に6会場で予選。もう1つ、日本吹奏楽普及協会と産経新聞社の主催による全国ポピュラーステージ吹奏楽コンクールは全国大会が11月21日に昭和女子大学人見記念講堂で行われ駒澤大学高校が優勝。予選は9月にCDによる。

定例イベントではバンド維新が2月21日と22日にアクトシティ浜松で行われ久石譲らによる新作8曲が初演。3月8日には第18回「響宴」が行われ19曲が紹介された。恒例イベントが続くなか、日本管楽合奏指揮者会議（JWECC）は4月12日に名古屋国際会議場で開かれた第10回で休止が発表された。

5月2日ラ・フォル・ジュルネ金沢「吹奏楽の日」に地元の高校バンド等が出演。翌3日の本公演オープニングコンサートでも高校バンドによる演奏。同日東京のラ・フォル・ジュルネでは東京音大sweが時任康文の指揮で公演。

近年はホールの企画による吹奏楽公演も目立つ。文京シビックホールは開館15周年で様々な管楽器関連企画を開催。特に5月24日に行われた文京プラスウィークでのアンサンブルリベルテ吹奏楽団による公演では委嘱作品6曲（吹奏楽曲2、室内楽曲2、ポップス2）の初演。9月には恒例となった東京芸術劇場プラスウィークで東京佼成woと東京吹奏楽団が定期演奏会。後者はフィリップ・スパークを招き立教大学の合唱と共演。東京芸術劇場といえば昨年発足した芸劇woが3月13日に井上道義の指揮で権代敦彦への委嘱初演を含む内容の第1回演奏会。同団は11月1日の開館25周年記念公演にも鈴木優人の指揮で演奏。新形態の吹奏楽団の在り方として今後注目したい。

■海外との交流

7月18日に昭和音大wsがカリフォルニア州サンノゼで行われたWASBE（世界吹奏楽大会）で演奏。9月13日に九州管楽合奏団が韓国国際吹奏楽祭へ参加。11月15日に警視庁音楽隊と大阪府警察音楽隊がベトナム・ホーチミン「第20回世界のお巡りさんコンサート」に出演。12月下旬の台湾・嘉義市国際管楽祭にはVIVID BRASS TOKYOが参加したほか、ブラック・ボトム・プラス・バンド、八王子学園高校、京都府の高校合同バンド、鹿児島県の中高選抜バンドも参加。高校バンドの海外での演奏は多く、特に12月17日にシカゴで開かれたミッドウエスト・クリニックでの就実高校（岡山）の公演が注目を集めた。他、3月23日に京都両洋高がベルリン・フィルハーモニーで現地の高校と友好演奏会、3月25日と26日に明治大学付属明治高がウィーン楽友協会ムジークフェラインザールで単独演奏会、4月25日に浜松海の星高が台湾でのクリニックでヨハン・デメイの自作自演と新田幹男ソリストで演奏、12月29日に都立片倉高が日韓国交正常化50周年の外務省助成事業によりソウルで演奏。

外来バンドはトルコ・オスマン軍楽隊が6月5日にすみだトリフォニー公演、翌日に表参道をパレード。10月上旬に英国ロードストリーム・ガーズ・バンドがツアー。11月22日に大田区民ホールアブリコでの日韓文化交流演奏会において済州島の市民バンド漢撃weが日本のバンドと共演。

その他、アンサンブルも多数来日。2月「ムノツイル・プラス」、6月下旬「ミシェル・ベケ&ベルギー金管アンサンブル」、7月上旬「アンサンブル・ウィーン=ベルリン」および「ベルリン・フィル12人の金管奏者たち」、8月上旬「スバニッシュ・プラス」（初来日）、9月下旬から10月上旬「タンブッコ」（メキシコの打楽器合奏団）、10月下旬「ハバネラ・サクソフォン・カルテット」（フランス）、12月中旬「ウィーン=ベルリン・プラス・クインテット」が、それぞれツアー。ソリスト単位でもセルゲイ・ナカリヤコフのリサイタル（7月3日すみだトリフォニー）など多数の来日公演が行われた。

■その他の話題

3月2日発表の第29回日本ゴールドディスク大賞で精華女子高が昨年発売したCDが年間トップの売り上げを記録し「クラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤー」を獲得。他、TOKYO MX等で放送の吹奏楽部が題材のアニメ「響け！ユーフォニアム」が話題に。秋の褒章で作曲家の保科洋が社会教育功労者表彰、瑞宝中綬章を受章したのは吉報。